

RUBeC 演習

中野元希

Genki NAKANO

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2019年8月17日から9月2日にかけてカリフォルニア州バークレーで行われた RUBeC 演習に参加しました。この演習では、今後国際学会に参加するときに十分通用するような英語力を身につけることを目的として、テクニカルライティングと英語プレゼンテーションについて学びました。また、Keysight Technologies 社とカリフォルニア大学デービス校を訪問し、アメリカの企業および大学生活の様子について知ることができました。

2. 目的

私が RUBeC 演習に参加した目的は、英語で会話ができるようになりたかったからです。私が将来技術者として就職したとき、時代がグローバル化していく中、英語は必要不可欠であると考えています。私は、英語でのリスニングやリーディングには自身がありましたが、スピーキングとライティングが苦手で、これらを克服するには数日間英語しか使えない環境の場所へ行くことが最も効果的であると考えました。

3. 授業

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングでは自身の研究に関する英語の要旨の校正を最終目標として授業が行われました。

1週目は冠詞や前置詞、接続詞など文法の使い方を学びました。普段から英文を読んだり聞いたりする習慣があっても英語を話したり英文を書いたりする習慣がなかったので、1週目の授業は少し難しく感じました。特に、前置詞の使い方は難しく、これ

に関しては今後練習が必要であると感じました。2週目は1週目で学んだ文法を活かし自身の英語の要旨の校正を行いました。現地の先生と協力して校正していく中で、専門用語の意味やグラフの内容を説明するのは難しく、所々龍谷大学の教授に補助してもらいましたが、文法や表現の誤りをすべて校正し、要旨を完成させることができました。

3.2 英語プレゼンテーション

英語プレゼンテーションでは授業最終日のプレゼンテーション大会に向けて、英語の発音や英語のスライドの作り方、発表の仕方などを学びました。英語の発音では“synthesis”という単語の“s”の発音と“th”の発音の仕方が難しく、なかなか思うように発音できなくてとても苦戦しました。スライド作りでは、アニメーションはあまり使わず、簡潔で見やすいスライドを作ることが重要であると学びました。発表方法に関しては、聴衆に伝わるようにゆっくりジェスチャーを使って発表することが重要だと学びました。また、これらは英語の発表だけでなく、今後の学会発表や修士論文発表といった日本語の発表でも活かしていけるので、とても充実した授業となりました。

4. 企業訪問

1週目の水曜日にカリフォルニア州サンタ・ローザにある Keysight Technology 社を訪問しました。この企業は電子計測器メーカーとして、世界中の多くの企業や研究機関から高い信頼を得ています。Keysight では1939年設立という長い歴史と高い専門知識と技術力だけでなく、お客様から高い評価をもらう上で最も重要な信頼性を重要視しており、製品開発だけでなくさまざまな状況を考慮した品質検査にも大変力を入れておりました。また、企業紹介だけでなく、電子計測器の製造過程から品質検査までの一連の様子も見学させていただき、とても貴重な経験となりました。企業の雰囲気は、日本の企業と違って堅い感じはせず落ち着いた雰囲気です。

ちは仕事をしており、さらに定時は存在せず仕事さえすれば何時に出勤して何時に退社してもいいという日本ではありえないような自由な雰囲気が印象に残りました。

5. 大学訪問

2週目の水曜日にカリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) を訪問しました。敷地内はデービス校の学生に案内してもらい、敷地面積は5300 acre ととても広く、学生たちは自転車やキックボードを使って移動していました。また、敷地内には多くの図書館や広い自習室、さらに芝生上にハンモックが設置されており、とても勉強しやすく生活環境のよい印象でした。次に、学内の研究施設の一部である昆虫博物館を見学させていただきました。ここでは、世界中の研究機関と協定を結ぶことによって、世界中（南極大陸を含む全大陸）の昆虫の生体や生息地の環境に関する研究を行っていました。ここで最も驚いたのが、保管されている標本の数です。世界中から集められた昆虫の標本が保管されているので、その数はとても多かったです。また、私の専門分野とは別の分野を学べた良い機会となり、私も今後海外でこのような大きい研究機関に関わってみたいと思えました。

6. ホームステイ

RUBeC 演習の期間中は2週間のホームステイをしていました。初めてのホームステイでとても楽しみにしていましたが、私の英語力が乏しく、ホームステイが始まった頃は食事の時間の会話や明日の予

定を伝えるだけでも非常に苦労しました。しかし、英語での会話にだんだん慣れてきて、1週間くらいたったころには夕食時には一緒にスポーツ番組を見ながら会話したり、日本の有名なスポーツ選手を紹介したりできるまでになりました。2週間という短いホームステイ期間でもほとんど英語が話せない状態から日常英会話ができるレベルにまで成長できて、とても有意義なホームステイ生活を送ることができました。

7. おわりに

今回の RUBeC 演習に参加することによって、2週間という短期間で英語でのスピーキング力はかなり向上したと思っています。しかし、ネイティブの早い英語がたまに聞き取れなかったり、文法力が不足していたりと、まだまだ不十分なところも多く、これから今後控えている国際学会に向けて勉強が必要だと感じました。



図 集合写真